

# 令和2年度 事業計画

学校法人 大阪成蹊学園

## I. 大阪成蹊学園の全体方針

### 1. 大阪成蹊学園の概要

大阪成蹊学園は昭和8年に創立された、87年の歴史を持つ総合学園です。現在、傘下に大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園を擁し、在籍者数約7,000人、教職員数約550人、卒業生総数が約119,000人の伝統と実績のある学園です。

#### (1) 建学の精神

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」は、司馬遷の『史記』に由来する故事成語で、「桃<sup>すもも</sup>や李<sup>なし</sup>は何も言わないが、その美しい花や実<sup>こみち</sup>にひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道<sup>こみち</sup>ができる」という意味から、徳が高く尊敬される人のもとには多くの人が集まってくるという譬えです。このように徳があり人に慕われ信頼される「人間力」を備えた人を育てることを教育の基本目標としています。

#### (2) 行動指針 「『忠恕』の精神」

「忠」は誠実、「恕」は思いやりを表わし、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという意味です。建学の精神を実践するにあたっての行動指針としています。

#### (3) 教育の基本理念

建学の精神「桃李不言下自成蹊」、行動指針「忠恕」に基づく、真に「人間力」のある人材の育成

#### (4) 人間力の定義

建学の精神で掲げた教育の基本目標である、「人間力を備えた人材の育成」を実践するにあたり、本学園では以下の通り「人間力」を定義しています。

- ① 強い身体・柔軟な心を持ち、生命力豊かな人
- ② 「読む」「書く」「話す」などの基礎能力を十分保有している人
- ③ 人と円満に話しつつ、かつ迎合しない主体性・独自性を持っている人
- ④ 世界を俯瞰し、広く大きく物事を捉えた適切な判断基準や問題解決ができる人
- ⑤ 強い好奇心や向上心を持ち、劣悪な環境をも克服する強い心を持つ人
- ⑥ 人に対する深い理解と忠恕の心を持ち、人との絆を大切に人

### 2. 学園運営の基本方針

大阪成蹊学園は、今後10年を見据えた「大阪成蹊学園中長期経営計画（2020-2029）」における10のアクションプランをもとに、経営・教学の更なる充実を図っていきます。事業計画の推進にあたっては、理事長・総長、各学校長のリーダーシップの下、建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材の育成を目的とする全学的な教育改革と、安定的な法人・学校運営を可能にする経営基盤・ガバナンスの強化に取り組みます。また、学校において想定される様々なリスクや非常時に備え、危機管理体制を万全にし、多様なステークホルダーから信頼され評価される学園

運営をめざしていきます。

## II. 教育部門の基本方針

### 高等教育機関

#### 1. 「大阪成蹊 LCD 教育プログラム」の全学展開

各学部等において想定する進路において必要となる「確かな専門性」だけでなく、人間力の基盤となる「リテラシー (Literacy)」「コンピテンシー (Competency)」「ディグニティ (Dignity)」の3要素を統合的に育む「大阪成蹊 LCD 教育プログラム」を展開します。令和2年度においても、教学改革 FSD 会議及び新旧20の教学改革プロジェクトを中心として、以下に記載する(1)教育課程・教育内容の充実、(2)教育方法の工夫、(3)FD・SDの充実、(4)アセスメントの徹底、(5)新たなプロジェクトによる教育改革の取り組み、(6)高大接続改革、(7)学生指導の徹底の7つの観点からプログラムを更に強化し、学生の「人間力」を高める「大阪成蹊 LCD 教育プログラム」としての体系的な教育活動を展開します。

##### (1) 教育課程・教育内容の充実

###### ① 初年次教育

世界共通に達成すべき課題として国連が掲げる目標「SDGs」や各学科の専門とも密接にかかわる時事問題などを題材に、世界や世の中の問題に視野を広げながら、ゼミ形式で学んでいくことで、レポート作成や効果的なプレゼンテーションの技法、情報機器の操作などのスキルとともに、様々な調査や議論、ワークを繰り返すなかで思考力や表現力を高めていく授業を展開。

###### ② キャリア教育・インターンシップ

2年次の全学 PBL 科目(前期:企業等 後期:自治体)を中心に、プロジェクトベースでの取り組みを通じて実際課題を解決する授業を展開。企画の効果的なプレゼンテーションを行えるよう、プレゼンテーション大会も開催。インターンシップ制度もさらに充実を図り、学生が成長を実感できる実習プログラムへと改革する。

###### ③ 学外連携授業

学科・コースの学びの専門性に応じた産官学連携による授業を展開(PBL 授業、ゲストスピーカー、フィールドワーク)。令和3年度に向けて新たな連携授業の準備も進めていく。また、令和2年度から開講する新たな特別リレー講義科目として、共通科目では「AI 入門」、経営学部の専門科目では「未来展望セミナー」の聴講を伴う「経営特論 I・II」、芸術学部の専門科目では「特殊講義 1・2」を開講し、各分野の最前線で活躍する様々な講師を招聘し、視野を広げながら思考を深めることのできる特別授業を充実する。

###### ④ 専門教育・ゼミ・卒業研究

資格・免許等の取得はもちろん、その資格・免許を生かして、現場で活躍できる力をどこまで伸ばせるかを考え、講義でも実習でも、一人ひとりの進度に応じたきめ細かな指導と実践を常に意識した学びを展開。学外の人々と協力して取り組むプロジェクト型の学修やフィールドワーク、実習と、様々なゲストスピーカーによる講義を充実。また、世界で専門を学ぶグローバル・アクティブラーニングプログラムによる海外研修も豊富に展開する。多くの

学修を重ねながら専門性を磨き、卒業時には全員が卒業論文・卒業制作に取り組むことで、学びの統合を図る。

⑤ 語学・グローバル教育

国際観光ビジネス学科の STEP 留学や、教育学科中等教育専攻英語教育コースの選択型の留学、各学科等のグローバル・アクティブラーニングプログラム、その他交換留学・国際交流プログラムの更なる充実を図り、正課内外のプログラムが連携したきめ細かな語学指導と海外挑戦の機会を多様に設け、高い語学力とグローバル・マインドを養う。

⑥ 大会・コンペティション

プレゼンテーションや英語スピーチ、卒業研究やピアノ技能などの各学びの分野ごとに様々な大会・コンペティションを開催し、多くの学生の学修の動機づけの一つとなり、学修の成果を発揮することのできる機会を充実する。

(2) 教育方法の工夫

① アクティブラーニング

すべての授業で、教員と学生、学生同士のやり取りを重視し、学生が能動的に学ぶことのできるアクティブラーニング型の授業を展開。教員一人ひとりが、すべての授業でアクティブラーニングの計画書を作ったり、シラバスや成績評価の方法を工夫したりして、より良い授業をめざしている。今年度は従来の「アクティブラーニング・ハンドブック」に加え、専任教員一人ひとりの「私のアクティブラーニング」を取りまとめるとともに「アクティブラーニング実践事例集」を新たに発刊し、全学的なアクティブラーニング型授業の展開を更に推進する。

② 成績評価

全学的な成績評価の考え方を示したガイドラインを踏まえた成績評価と、ルーブリックを活用した観点と尺度を明確にした成績評価の徹底を図る。また GPA の分布状況を踏まえた成績評価方法の見直しや GPA の実質的な活用についても、組織的に進めていく。

③ シラバス

学生にとってより分かりやすいシラバスの作成をめざし、シラバス作成の手引き（改訂版）の作成や、チェック体制の強化、研修内容等の充実を図っていく。

(3) FD・SD の充実

① FD 研修会

教学改革に伴う質の保証に係る研修や学生指導の在り方、研究倫理や科研費の申請、コンプライアンスの遵守のほか、学部が独自に企画する研修など、教員一人ひとりの教育・研究力の向上や効果的な学校運営に資する体系的な FD 研修を実施する。また研修を通じた各教員の理解度の可視化を図る。

② ティーチング・ポートフォリオ

教員一人ひとりが現在の教育理念とこれまでの教育実践を振り返るティーチング・ポートフォリオの作成を義務付け、教育業績の評価や FD 研修に活用する。

③ 教員表彰

優れた教育実践・研究活動や大学運営、課外活動における指導など、多様な活動を対象にして教員表彰を実施する。

④ SD 研修会

各事務部門における OJD や企画型研修、本学の経営・教学方針や外部環境の変化等に関する全学研修などを充実し、大学運営を支える教職員に必要な職能形成を図る。

(4) アセスメントの徹底

① 授業評価アンケート

全ての授業を対象にした授業評価アンケートを実施して、アンケート結果を踏まえた授業実施報告書・授業改善計画書を作成し、授業単位の PDCA サイクルを確実に回していく。

② PROG テスト

リテラシー、コンピテンシーを測定するものとして、PROG テストを 1 年次と 3 年次（短期大学は 2 年次）を中心に実施し、ディプロマ・ポリシーとも紐づけながらその達成状況を可視化し、学生へのフィードバック方法を工夫する。

③ 卒業時アンケート

卒業時に、各学部等のディプロマ・ポリシーの各項目の達成状況を学生が自己評価するとともに、教育内容への満足感や自己の成長実感などを明らかにして、教育目的の達成状況を検証し教学改善に役立てていく。

④ その他アンケート

卒業生を対象にしたアンケートや就職先企業等を対象としたアンケート、在学学生を対象にした学生生活調査アンケートや文部科学省による全国学生調査など、教学改革により活かすことのできる調査設計や分析方法等を検証し、アセスメントとして実施していく。

⑤ 自己点検・評価

自己点検・評価委員会を中心に、3 つのポリシーを軸にした教学運営や経営の適切性を検証・評価し、改善方策を織り込んだ自己点検・評価報告書を作成する。

(5) 新たなプロジェクトによる教育改革の取り組み

① 柔軟な履修体系への移行

100 分授業の導入やクォーター制への移行、副専攻制の導入などにより、既存の枠組みに捉われない柔軟な履修ができるよう検討を進め、新しい学修経験が可能な履修体系を構築していく。

② AI・数理・データサイエンス教育の充実や ICT 環境の整備

Society5.0 に対応する新たなリテラシー教育として、全学共通のデータサイエンス科目や AI への理解を深める科目の開設、既設科目における最新の知見の反映等を行っていくとともに、学校運営を支える ICT 環境の整備にも取り組んでいく。

③ 学修成果の可視化（ディプロマ・サプリメントの開発・導入）

卒業時における学生一人ひとりのディプロマの達成状況を可視化するものとして、ディプロマ・サプリメントを開発・導入する。

## (6) 高大接続改革

- ① アドミッション・ポリシーに掲げる学力の3要素や基礎的なリテラシー・コンピテンシー・ディグニティを多面的に測ることのできる面接試験の導入、小論文・学科試験、調査書活用等の新たな工夫を行い、より精度の高い入学者選抜を実現する。

## (7) 学生指導の徹底

- ① 学生一人ひとりが個々のブランドを磨き上げていく「パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクト」に基づく学生指導を徹底する。

## 2. 学生支援の充実

学修や学生生活の満足度

- (1) アドバイザー・チューター教員・担当職員・保護者との連携による支援の充実、オフィスの効果的活用
- (2) クラブ、サークル、ボランティア、学会、コンテストなど学びにつながる課外活動の活性化
- (3) 各種センター等の充実
  - ① 学生支援センター  
学生生活・人間関係の不安や、一人暮らしの相談など、広範囲に学生をサポート
  - ② 留学生支援センター  
各種申請手続き、授業の履修指導、日本語学習サポートなどの修学支援などを通して、留学生の学生生活をサポート
  - ③ 教育研究支援センター  
資格取得や対策講座などにおける活動をサポート
  - ④ こども教育支援センター  
教育実習、保育実習、施設実習、介護等体験の学外実習の充実と学生の円滑な実習をサポート
  - ⑤ スポーツ開発・支援センター  
学生の適切なトレーニングをサポート及び学生と地域社会等との連携に関する事業をサポート
  - ⑥ スポーツ&カルチャーセンター  
学園のクラブ活動を積極的にサポート及びスポーツ振興や文化事業の実施による地域連携、高大連携に関する事業をサポート
  - ⑦ 英語教育センター  
正課外における英語学習機会を提供。英語学習に特化した学科等の学生を対象とした英語関連の個別指導を実施
  - ⑧ 国際交流センター  
特色ある海外研修や交換留学など学生の海外での学びをサポート
  - ⑨ 産官学連携センター

官公庁や企業と連携し、アクティブラーニングや PBL 学修の環境を整備

- ⑩ 音楽教育センター  
音楽教育の充実を図るための企画・運営や、学生のピアノ演奏技術の習得を指導
- ⑪ 教育人材育成センター  
教員採用試験対策のアドバイスができるセンタースタッフが、小中高教員・保育者をめざす学生をサポート
- ⑫ 教職センター  
保健体育教員の現役合格を目指して学生によるコアチームを結成するなど、専門スタッフが採用試験対策をサポート
- ⑬ 学習支援室  
就職に必要な基礎学力の向上や、夢に向かって自発的・意欲的に学習したい学生の学びをサポート
- ⑭ ラーニングコモンズセンター  
授業課題や学修相談、就職に向けた基礎学力や SPI テスト対策に係る学習まで、幅広い学びをサポート
- ⑮ 学生医療相談  
アスリート特有のスポーツ障害への対応からリハビリ・予防法・栄養指導など、競技者としての生活をサポート
- ⑯ 学生相談（カウンセリング）室  
カウンセラーによる、学生の心の悩みへのカウンセリングを実施

### 3. 学生の就職支援及び進学指導の推進

#### (1) キャリア支援

- ① 学部、学科の特色に合わせた就職指導・支援の強化
- ② 教職協働による就職進路指導・支援体制の強化
- ③ 就職のための資格取得の促進
- ④ 就職希望者別の対策講座の充実
- ⑤ 教育人材育成センター・教職センターとの連携による教員採用試験対策の充実
- ⑥ キャリア意識醸成に向けた年次別ガイダンスや先輩との交流会開催
- ⑦ 学内企業セミナーの充実

#### (2) 企業開拓・広報活動

- ① 企業との関係強化による就職の量的拡大と質の向上
- ② キャリア形成を支える卒業生との同窓会や卒業後の追跡調査等ネットワークの形成
- ③ 学園内合同企業説明会の強化

### 4. 研究の推進

- (1) 研究紀要の充実
- (2) 学会等での研究発表、論文投稿の推進
- (3) 科学研究費補助金等の外部資金獲得の推進

- (4) 共同研究の推進
- (5) 研究成果への表彰等の推進

## 5. 教職協働の推進

- (1) 約 90 人の幹部教職員が関わる経営会議等重要会議の推進
- (2) 優秀な若手教職員及び幹部教職員による、教務強化・学生支援強化・募集強化・就職強化に関するプロジェクトチームの組成と活動の強化
- (3) 教員・職員が対等となる本部長制による責任の明確化と体制の強化

## 6. 入試広報の充実

- (1) 学生のニーズに沿った教育内容の充実と早期の情報発信

## 7. リスク管理の強化

- (1) 自然災害、事故、感染症等公衆衛生に関わる緊急事態、情報漏洩、ハラスメント、SNS によるトラブル等「21 の重要リスク項目」の制定に伴う、危機管理体制の強化並びに危機管理マニュアルの周知徹底
- (2) 重要リスク項目に関する監査の徹底によるトラブル発生リスクの防止、並びに教職員への学園リスクの周知による危機管理意識・コンプライアンス意識の徹底

### 大阪成蹊女子高等学校

大阪成蹊女子高等学校は女子教育に特化し、国際教育、キャリア教育及び人間力教育を強固に推進しながら、グローバル人材及びグローバルリーダーの育成をめざし、以下の 4 点を令和 2 年度事業運営における基本方針とする。

- (1) 学校教育力の向上（建学の精神に基づく人間力教育の推進、教育の質向上に向けた改革の推進、グローバル教育の推進）
  - ① 本学の特色であるキャリア教育、「キャリアデザイン」及び「ホスピタリティ」科目において人間力（社会人基礎力）育成を強化
  - ② 本学の特色であり強みである 2 学科 6 コースの教育内容の充実
  - ③ LINES ドリルの充実など ICT を活用したアダプティブラーニング（適応学習）による教育力の向上
  - ④ 新入生への中学校学習内容の復習等、学力の定着に向けた指導の強化
  - ⑤ 全教員の自己点検評価の徹底と FD 研修により、教員の指導力強化を図り、生徒の学力を向上
  - ⑥ 海外修学旅行、台湾との国際交流、ホームステイ型語学研修等の継続した実施によるグローバルなキャリア教育の推進
  - ⑦ ALT を活用した全コース少人数制の英語教育に加え、放課後の 1 年生全員出席の「ベルリッツ英会話教室」の実施による使える英語力の向上
  - ⑧ e-ポートフォリオの導入と全教科でのルーブリックを活用した多面的な学習評価の推進



- ⑨ 令和 2 年度開設の「音楽コース」の充実、令和 3 年度に新たに設置する「アドバンス英語レーン」の教育内容の検討

## (2) 生徒募集の推進

- ① 新コース・レーン（令和 2 年度開設の「音楽コース」、令和 3 年度開設の「アドバンス英語レーン」、令和 3 年度から募集を開始する「看護医療系進学コース」）の広報展開
- ② 併設大学・短期大学への内部進学を打ち出した広報展開
- ③ 各コース・レーンの特色を明確化した広報展開

## (3) 学園内連携の促進

- ① 学園内連携授業を 100 コマ以上設け、学園内の高大・高短連携の内容を充実
- ② 内部進学率及び高校の教育力を高め、募集広報戦略に繋がる連携を推進

## (4) 生徒指導の強化

- ① 生徒数増や多様化するニーズに対応した生徒指導体制の構築
- ② 課外活動の更なる活性化（加入率・成績の向上）、指導者及びスカラシップ制度の見直し
- ③ 生徒のカウンセリング強化を図るため養護教員の複数配置を維持

## 大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

こみち幼稚園は、楽しい「遊び」を通して、幼児の心情・意欲・態度を育みながら、「強く明るく考える子ども」を育成することを教育活動の目標とし、以下の 8 点を令和 2 年度事業運営における基本方針とする。

### (1) 心の教育

- ① 幼児が、豊かな情操や思いやり、生命を大切にする心、善悪の判断などに繋がる力を育む保育実践の追及

### (2) 道徳性の芽生えを育む

- ① 幼児が生活の中で、ルールやマナーなど道徳性や規範意識を醸成するための関わりや環境構成の工夫及び充実
- ② 人に親切にする、思いやりの気持ちを醸成する温かい雰囲気づくりの促進

### (3) 健康・安全教育と保健室機能の充実

- ① 「ほけん（保健）のしおり」の更なる活用
- ② 基本的な生活習慣に関する指導法の研究を行い、幼児の健康管理や安全管理についての理解と意識を向上
- ③ 養護教諭を中心とした保健衛生管理の充実
- ④ 保護者説明会や教職員に対する安全に関する研修と避難訓練の実施

(4) 食育の推進

- ① 短期大学栄養学科等との連携推進を行い、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちを育成

(5) 自然環境と体験学習の充実

- ① 季節感のある環境を構築し、幼児の身近な動植物に対する興味や関心を積極的に促す保育の実践

(6) 音楽・運動・造形表現遊びの充実

- ① 表現意欲を発揮できる遊具、用具などを準備し、自然・音楽・絵画等、美しいもの、優れたもの、感動するものとの出会いを促進し、各専門講師と連携し、幼児理解を深め、個々に合った指導方法を実践

(7) 大学、短期大学、高校との連携プログラムの推進

- ① 教育学部、幼児教育学科、高校との連携内容の見直しと改善を行い、幼児や学生にとって望ましい経験となる教育実習内容を検討
- ② 教育学部、芸術学部、幼児教育学科、グローバルコミュニケーション学科教員との教育観の共有

(8) 園児募集の強化

- ① 教育内容及び保育内容の充実と情報発信による3歳児クラス、2歳児クラスの募集力強化

### Ⅲ. 経営計画

#### 1. 令和3年度 学生・生徒・園児募集

各学校とも入学定員を次の通りとする。

(単位：人)

学校・幼稚園名		入学・募集定員	計
大阪成蹊大学	経営学部	300	695
	経営学科	110	
	スポーツマネジメント学科	110	
	国際観光ビジネス学科	80	
	芸術学部	190	
	造形芸術学科	190	
	教育学部	200	
	教育学科 初等教育専攻	140	
	中等教育専攻	60	
	大学院 教育学研究科	5	
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部	360	370
	スポーツ学科	360	
	大学院 スポーツ学研究科	10	
大阪成蹊短期大学	生活デザイン学科	50	680
	調理・製菓学科	100	
	栄養学科	80	
	幼児教育学科	280	
	観光学科	90	
	グローバルコミュニケーション学科	30	
	経営会計学科	50	
大阪成蹊女子高等学校		400	
大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園		90	
学園合計		2,235	